

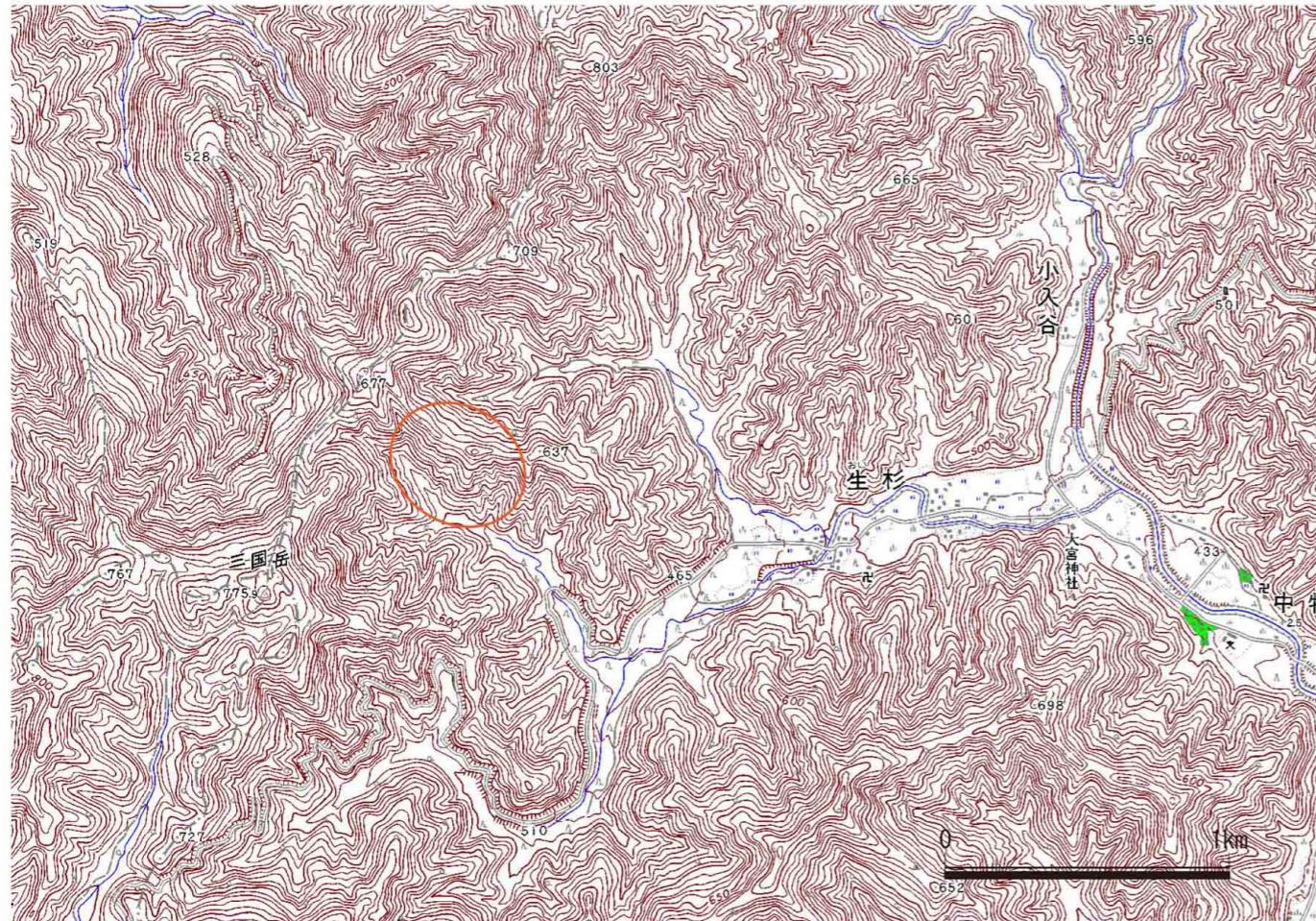
周辺の
みどころ

生杉まで行ったら、三国峠を経て、京都大学の芦生演習林まで足を伸ばそう。中山神社から長治谷作業所跡までは、比較的平坦な道のりであるが、人工林が多く、歩きやすいが、やや興味にかけない。長治谷作業所跡を拠点として、杉尾峠や榎坂などへ行くことができ、本格的な自然も楽しめる。いずれにしる、ブナ林への入山を含めて、本格的な登山となることから、入山届けを出し、安全な服装、万全な装備など、できれば登山熟練者との同行が望ましい。

針畑川の流域は、美しい山村景観が続く。藁葺き屋根の古民家も多く残り、見所は多い。その中でも平良と小川にある「シコブチ神社」は安曇川流域の杣と密接に関係する神社で、筏流しの安全を司るとも言われる。安曇川流域全体では15社あり、これを全て制覇することもお勧めである。



小川シコブチ



[アクセス]

● JR湖西線安曇川駅から江若バス朽木小学校前行きに乗車。終点の朽木小学校前で下車。ここから市営バスで生杉行きに乗車、終点生杉下車、ここから徒歩。
自家用車でのアクセスが現実的。ブナ林の登り口や三国峠には駐車スペースがある。道は狭く曲がりくねるので、安全運転で行こう。

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

● 朽木いきものふれあいの里
Tel. 0740-38-3110

おいすぎ
生杉のブナ林

高島市朽木生杉



生杉のブナ林

安曇川の支流の一つである針畑川、その源流部に位置するのが生杉である。近江、若狭、丹波の国境が接する「三国峠」に近いこの地域は、木地師の里でもあり、人々は自然の中で豊かな生活を営んできた。

しかし、こうした山村であるが故に、山々が豊かな自然林という訳ではない。古く、平安時代には「針畑庄」として藤原氏の領有する荘園となったこの地は、「杣」として、藤原氏の造作に森林資源を提供することを生業としてきた。そのため、有用な森林は伐採され、江戸時代には、もはや材木の供給地としての機能は失っていたとも言われている。

生杉のブナ林は、こうした歴史の中で、奇跡的に残されてきた自然林である。そして、琵琶湖の水源地として、本来の姿を伝える貴重な存在となっている。





生杉ブナ林

生杉のブナ林

所在地 高島市朽木生杉

ブナは、温帯域に生育する落葉樹である。低山の照葉樹林帯と亜高山の針葉樹林帯の間が主たる生育地となり、雪が多い日本海側の山地や奥羽山地では、純粋に近い状態のブナ林が広範囲に存在することとなる。林床にはチシマザサが発達することから、チシマザサブナ林相とも呼ばれるが、太平洋側ではミズナラなどとの混交林を形成することが一般的である。

滋賀県付近では、標高1,000m以上の地域がブナ林の適地となり、その生育地は本来的にも多くはない。生杉のブナ林は、そうした貴重なブナ林の一つで、基本的には日本海側のブナ林帯に属するが、ミズナラなども混生する。その他、滋賀県下で湖北の菅山寺付近や横山岳などでもブナ林が見られる。また、伊吹山では、残存するかの状態でブナの木が見られ、特徴的な植生環境である。

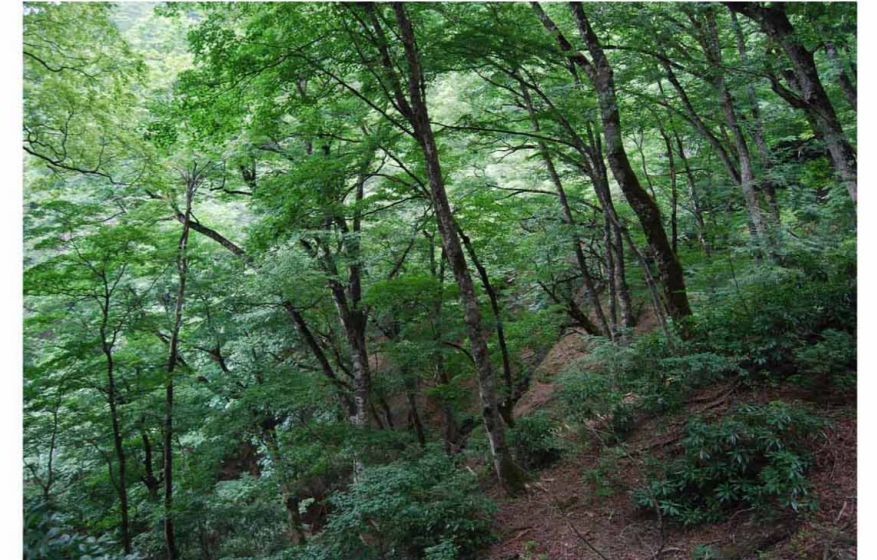
ブナは大きく育つ樹木で、樹高30mに達するものも存在する。樹皮は白っぽい灰色で、これ

にコケなどが取り付くことで、独特の文様を見せる。葉は楕円形で薄い。縁は鋸歯というよりも葉脈の部分で少しくぼむような感じである。雌雄同株で、春に花を付け、秋には木の実がある。シイの実の表面を少しトゲトゲさせたような実で、断面が三角形、少しやせたドングリと言った果実である。栄養が豊富で、渋みが無いことから、生で食べることも可能であり、熊などの大型動物の餌としても貴重である。

青森・秋田の県境に広がる白神山地が世界自然遺産に登録されたことを契機に、ブナ林は大きな注目を集めた。褐色の鱗片に包まれた冬芽が次第に大きくなる早春のブナ林、薄緑の葉が陽光を透過させ明るさにあふれた初夏のブナ林、盛夏、濃く繁茂した葉は薄暗い森を作り、黄色から赤茶に色づき燃えるような紅葉のブナ林。そして、冬期には葉を落とし、深い積雪の中で、しっかりと聳え立つブナ林。その変化に富んだ林相は、日本の森林の代表とまで珍重された。しかし、「樺」と言う漢字が表すように、腐り



ブナの葉



生杉ブナ林



朽木針畑小入谷の集落

やすいうえに変形しやすいという特徴から、用材としての価値は低く、薬品処理や合板の技術が発達する以前においては、大規模な伐採を受けることなく、多くの地域でブナ林が残されてきた。多くのブナ林が乱伐されたのは、現代的な拡大造林事業の開始と、こうした技術革新の結果であり、最近の出来事でもあるのだ。一方、地域によれば、ケヤキの代用の下等品としての需要や薪炭燃料としての利用が盛んであった。生杉付近のブナ林については、京都と言う大量消費地に近いこと、杣としての長い歴史を有す

ることから、早い段階から伐採・利用が進められていたと考えられている。そして、今残るブナ林は、まさに奇跡的に残されてきたものであった。

この生杉を含む針畑川流域は、朽木木地師の活躍の舞台でもある。江戸時代、木地師が作成する高級木地碗は、朽木藩の主要な産品として知られ、例えば、参勤交代時の土産として珍重された。清らかな琵琶湖の水を生み出すブナの森は、朽木藩の名声を高める源でもあった訳だ。